

# 目 次

<b>1</b>	<b>主題設定の理由</b> .....	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>本校の実態</b> .....	<b>1</b>
<b>3</b>	<b>チームとしての組織づくり</b> .....	<b>1</b>
	(1) チーム明小の体制づくり	
	(2) 研究推進組織	
<b>4</b>	<b>共通認識のもち方</b> .....	<b>2</b>
	(1) 研究推進委員会	
	(2) 学習環境部	
	(3) 研修部	
<b>5</b>	<b>研修の実際</b> .....	<b>7</b>
	(1) 本校の研究課題	
	(2) 授業研究部	
	(3) 研究授業・授業研究会	
<b>6</b>	<b>成果と課題</b> .....	<b>12</b>
	(1) 成 果	
	(2) 課 題	

## 共通認識の下、チームとして組織を生かす校内研修の進め方

提案者 上三川町立明治小学校教諭 石川 洋  
教諭 石渡 伸一

### 1 主題設定の理由

新学習指導要領では、目指す資質・能力を「何ができるようになるのか」という観点で整理し、それを育成するために「何を学ぶか」の指導内容を計画し、さらにその内容を「どのように学ばせるか」「実施するために何が必要か」を併せて検討しながら授業の質を高めていくとある。そして、「何が身に付いたか」を振り返ることで、主体的な学びへとつなげていくことを求めている。

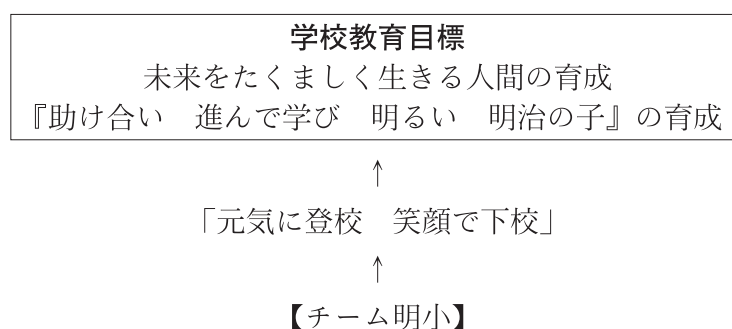
つまり、刻々と変化する社会に対応し、未来を切り開く子供たちに求められる資質・能力とは何かを明らかにし、それを家庭・地域と共有しながら確かな学力を育成していかなければならないということである。

そのための「学校力」を高めるチームとしての組織の在り方や協働体制での研修の進め方を提案したい。

### 2 本校の実態

- ・職員数20名 児童数228名（8クラス＋特支2クラス）の小規模校
- ・児童は、素直・誠実・親切な子が多い
- ・保護者の学校行事等への参加率が高い
- ・学級担任はベテラン揃い

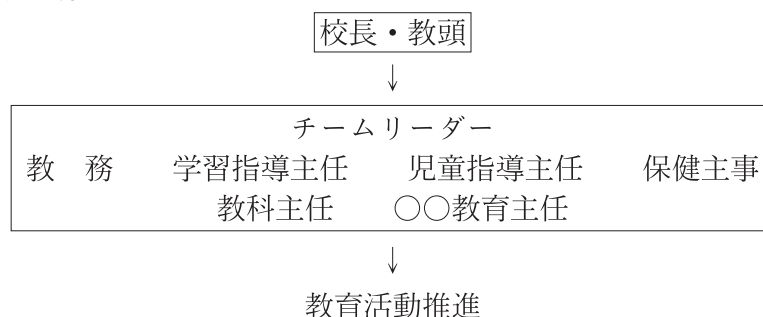
### 3 チームとしての組織づくり



学校教育目標を具現化するためには、教職員がチームとして目標を共有し、チームの一員としての自覚を高め、役割を果たしていかなければならない。

そこで、校長のリーダーシップの下、組織力を高めるための「チーム明小」の体制づくりを行った。また、常に児童の姿をイメージしながら教育活動を推進できるように、「元気に登校 笑顔で下校」の合い言葉を設けている。

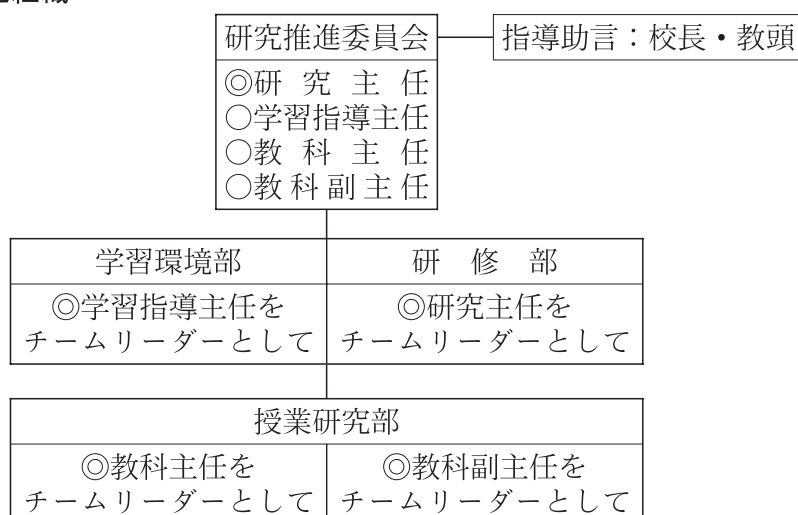
## (1) チーム明小の体制づくり



校長、教頭の助言を受け、各主任をチームリーダーに掲げ、方針を明確にして教育活動を推進する。校務分掌では当たり前のことであるが、「チーム」を鮮明に打ち出すことでベクトルを合わせ、組織力を高めていく。

校内研修での組織作り、特に、学校課題研究推進については以下の通りである。

## (2) 研究推進組織



研究推進委員会は、各部のリーダー4名で構成される。効率よくPDCAサイクルを回すため、研究主任を中心に、計画案作成、研修会での共通理解、進捗状況の確認と改善、更なる実践計画立案を行った。これら推進案に沿って、各部のチームリーダーが中心となって実践を進めた。

OJTを円滑に推進するための体制としてメンター方式が提唱されているが、本校の場合、チームリーダーとして誰もが活躍できるメンバー構成である。よって、チームリーダーはメンバーそれぞれの豊かな知識と経験から出された考えを生かしながら各部を運営している。もちろん、部として検討したり実践したりすることは、少数の若手教員のOJTにも役立っている。

## 4 共通認識のもち方

### (1) 研究推進委員会

昨年度末、学校課題研究の振り返りを行い、成果と課題を明確にした上で、全職員に学校課題に関する翌年度の希望アンケートを実施し集約した。

これまでの研究成果やアンケート等から研究テーマ、推進計画を立案し、全職員で検討を行った。

さらに、研究を共通理解の下に推進するために、「明小スタンダード」と銘打って提示するようにした。

#### 研究課題

自分の考えをもち、互いに学び合う児童の育成  
～児童がいきいきと自分の考えを伝え合う授業を目指して～



【明小スタンダード】の構築

併せて、校内体制についての組織についても提案し、協働で取り組むチームごとの目的や内容について確認した。各主任をチームリーダーとし、研究の進捗状況のチェックや取り組むべきことの提案を行う。

- ・学習環境、指導法：学習指導主任をチームリーダーとして
- ・研究推進の進捗状況：研究主任をチームリーダーとして
- ・研究授業、教材開発：教科主任をチームリーダーとして

## (2) 学習環境部

- ① 学習指導主任をチームリーダーとする学習環境部は、「学習環境の整備と充実」や「学力状況調査等の分析を基にした指導法」を中心に提案した。

「学習環境の整備と充実」に関する提案では、最低限行うべきことや、備えるべき教具について示した。全職員で検討を重ね、下記のようにまとめた。

#### 明小スタンダード「学びの環境を整えること」

- 授業に向かう児童の準備に関する指導【「明治の子供学習の約束」】
- 視覚や聴覚に訴える教具の活用【CDプレーヤーや実物投影機の整備】  
【デジタル教科書の活用】
- 時間配分の見通しを持たせる工夫【タイマーの活用】
- 構造的な板書における表示の工夫【めあて、まとめ、振り返りの表示カード】  
【色チョークの使い分け】
- 児童の考えを全体に示すための工夫【発表用ホワイトボードの活用】
- 話し方、聞き方のスキルを高める指導【「話し方・聞き方」の合い言葉】

#### 「話し方・聞き方」の合い言葉

##### 聞き方 あいうえお

あいてを見て  
いいしせいで  
うなずきながら  
えがおで  
おわりまで  
しっかり聞こう

##### 話し方 かきくけこ

かおを見て  
きちんとわかりやすく  
くちを大きくあけて  
けっしていそがず  
こえの大きさをかながえて  
しっかり話そう

- ② 「学力状況調査等の分析を基にした指導法」に関する提案では、全国学力・学習状況調査結果、とちぎっ子学習状況調査結果や学力テスト結果の分析を基に、さらに意識した指導や弱みを克服するための指導の仕方をまとめた。

なお、指導法については、頑なに枠を設けるのではなく、教師一人一人の創意工夫が生かせるように、指導の基盤や基本となる項目を挙げるように努めた。

**明小スタンダード「学びの姿勢を身に付けさせること」**

- 子供の学ぶ意欲・学習習慣について
  - ・話し合う活動の充実（機会を多くする）
  - ・ペア、グループでの対話
  - ・意見発表や話し合いスキルの育成
- 教師の指導力について
  - ・基礎的基本的内容の反復練習の実施
  - ・各教科の用語やキーワードの押さえ
  - ・ねらいに応じて大切な言葉に線を引ながら読む活動
  - ・キーワードを使って学習のまとめを行うこと
  - ・板書の工夫
  - ・ノート指導の充実

**(3) 研修部**

研究主任をチームリーダーとしての研修部では、「新学習指導要領に謳われる児童の資質能力や本校の研究課題について保護者の理解を促すこと」や「学力の定着を目指して家庭学習の充実が図れるように家庭の協力を求めること」を主眼に保護者啓発を行った。

このことは、学校が、新学習指導要領や学力状況調査結果を鑑みて、児童の学力向上のために協働体制で取り組んでいることや、日々の授業を充実させるように努力していることも伝えられる手段となっている。

**明小スタンダード「保護者の理解と協力を求めること」**

- 保護者の理解・協力について
  - ・学年便りや学年懇談会等を活用して家庭学習の啓発と習慣化を図ること
  - ・家庭学習強化週間の実施
- 親子の触れ合いを推進
  - ・子供の将来の夢について話す機会
  - ・子供の悩みや不安の低減や解消
- 子供の望ましい生活習慣を促すこと
  - ・早寝、早起き、朝ご飯
  - ・徒歩による登下校の励行
  - ・スマホやゲームの扱い方
  - ・インターネットや新聞等からの学習に関する情報収集

## 保護者用リーフレット

明治小学校保護者用リーフレットの2018.11.12

# 学力向上 通信①

### 本校の研究課題

**自分の考えをもと、互いに学び合う児童の育成**  
～児童がいきいきと自分の考えを伝え合う授業を目指して～

【児童が自分の考えをもてるように…】  
○基礎基本の習得 ○言語活動の充実 ○教育環境の整備 ○教師の授業力向上

【互いに学び合えるように…】  
○互いに交え合う集団づくり ○交流の場の設定と話し合いの工夫

特に「対話」を通して考えが深められるように、コミュニケーション能力の育成を回っています。

### 家庭学習強化週間

本校では、学びを充実させるため、隔月で第3日曜日を初日とする週を家庭学習強化週間としました。家庭学習の習慣化を図るため、ご家庭の協力をお願いします。

**第1回 11月18日（日）～24日（土）**  
**第2回 1月20日（日）～26日（土）**

年度始めに「家庭学習のてびき（低学年用・中学年用・高学年用）」を配付致しましたが、再度、お子さんとご確認していただき通年で家庭学習に取り組めるようご支援をお願い致します。

「なぜ、どうしてと疑問をもったことを事典やインターネットで調べる」「何が分かっていないか確かめながら勉強する」「くり返し書いて覚える」「テストで間違えた問題をやり直す」など、さまざまな学習方法を活用することも効果的です。

表面に「家庭学習強化週間チェックシート」を載せておきました。学習を進めるにあたり、このチェックシートの活用をよろしくお願いします。

## 宿題と自主学習

宿題は、授業で学んだ内容を理解させるため、授業に必要な考えを予めまとめておくために出しています。よって、全員に同じ課題で同じ量を課しています。

自主学習は、学習内容を知識として定着させたり、より発展的に理解したりするため、また、予習することで授業内容の理解を助けるために行います。このチェックシートは、家庭学習の習慣や学習意欲を身に付けさせるためのものです。学習の取り組み方や記入の仕方などを指導してから全員に配付しますが、自主学習の取り組み方は様々です。ぜひ、一週間の計画や実施について「対話」していただき、習慣化や意欲向上に役立ててくだされば幸いです。

### 家庭学習強化週間チェックシート

明治小 学年 名前

初めて

月日	学んだこと・感想 (おうちの人が書いても構いません)		おうちの人の印
	宿題	自主学習	
11/18 (日)			
11/19 (月)			
11/20 (火)			
11/21 (水)			
11/22 (木)			
11/23 (金)			
11/24 (土)			

一週間を振り返って

11月26日（月）に学校へ持ってきてください。

明治小学校保護者用リーフレットの2018.12.10

# 学力向上 通信②

## Society5.0

Society 5.0とは、将来得社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を目指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。ただ、今まで Society 1.0等の呼称があったわけではありません。（※内閣府の仮称より厳密）

そこで求められる学力として、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性、好奇心・探求力などが挙げられています。ノーベル医学生理学賞に選ばれた本庶佑先生は、研究の原動力は Curiosity（好奇心）とおっしゃっていました。学校でも、超スマート社会（Society 5.0）を見据え、学びに向かう態度を育てています。

### 毎月第3日曜日

県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。家庭は、最も大切な家族のよりどころであり、青少年が基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身に付け、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場です。（※熊本県青少年育成政策から抜粋）

そこで、「家庭の日」の過ごし方として、

- ・ 学校のこと、会社のことなど普段ゆっくり話そうとすることができない話題について話し合ってみよう。
- ・ 家族で料理を分担して作ったり、後片付けを分担するなど工夫して楽しもう。
- ・ ハイキングなどの自然とのふれあいを通じて、体験を共有しよう。
- ・ 美術館や博物館などに出かけ、お互いに感想を話し合ってみよう。
- ・ 地域行事に参加しよう。
- ・ 一緒に良い本を読みましょう。

など、いかがでしょうか。見聞を広げたり将来の目標をもつきっかけになったりと、学びの基礎力を養う上でも効果的な過ごし方と考えられます。

## 家庭学習の取り組み

第1回家庭学習強化週間へのご協力、ありがとうございました。子供たちの感想等をご紹介します。

【5年生】  
1週間、とてもバランスの良い自主学習ができました！そして、初めての難しい教科書を中心に進めていくことができたので、これからもバランスよくがんばって続けたいと思います。

【3年生】  
初めてで、にがたなところを中心に、自主学習をしました。まだがえたところも復習しておきたいことがありました。

【3年生】  
自主学習がはじかれるという自信ができました。これからもいっぱい自主学習をしたいと思います。

【6年生】  
算数が得意ですが、テストの振り返りをするなどによって、できなかった部分ができるようになりました。

【4年生】  
自主学習・楽しかったけど、理解、読解の自主学習もしたいです。お母さんのおかげで、家庭のテストでもとても自信ができました。これからも頑張って自主学習に励みたいと思います。

【2年生】  
読書が大好きです。毎日毎日読書ができてよかったです。

【6年生】  
できるだけ毎日やって、授業でやったことをちゃんと理解することができました。もう少し1日の学習時間を増やしたいです。

### 授業力向上

授業力向上を目指して、10月30日に2年生、11月28日には6年生で国語の研究授業を行いました。「言語活動の充実」や「主題にせまる読み取りのさせ方」を観点に、どのようにしたら一人一人が「読み」を深めることができるか話し合いました。

【成果】  
・ 物語に書かれている文章そのものを根拠に一人一人が自分の「読み」を持つことで、共通の話題で互いの考えを話し合うことができ、「読み」を深めることができました。

【課題】  
・ 今後も話し合いのコーディネート役としての技術をさらに高めるため、研修を継続していく。

研修風景

# 学力向上 通信③

## 第2回家庭学習強化週間

本校では、学びを充実させるため、隔月で第3日曜日を初日とする週を家庭学習強化週間としました。

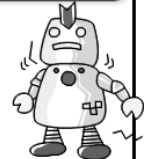
第2回目は、1月20日(日)～26日(土)です。

家庭学習の習慣は身に付いたでしょうか。今回も、「家庭学習強化週間チェックシート」を配付しました。お子さまの様子を見たり、学習したことを聞いたり励ましたりしながら、進んで学習に取り組めるようご支援をお願いします。



## キーワードは「対話」

これまでの機械的な暗記や計算もとても大切な学習ですが、新しい学力観は、身に付けた知識や技能を活用して様々な問題解決に役立てる力を育てることです。昨今、「シンギュラリティ (Singularity)」という言葉が聞かれるようになりました。この言葉は、AIがもたらす大きな社会の変化を表しています。また、「今ある仕事の半分近くがAIに取って代わられる」とも言われるようになりました。暗記や単純作業は最もAIが得意とする分野です。これからの学習に必要なのは、暗記で終わらせるのではなく、情報を正確に読み解く力、読み取ったことや考えたことを分かりやすく人に伝える力、伝えられたことから深く考え、共に思考力や創造力を駆使しながら知識を活用して物事を解決していく力です。人は、「対話」によって多様な考えを学び、人のよさを感じ取り、自分の生き方を考える力が育まれるものと思います。



そうは言っても、知識の定着には反復練習が極めて大切ですので、音読、漢字や計算の練習は欠かせません。その上で、お子さまが学んでいることに興味を持って、「どう説明したらいいかな」「見やすく書くには…」などと一緒に考えたり、「そのやり方はいいね」などと感想を言葉にしたりしていただければ、「勉強って楽しいね」と子供たちが思ってくれるのではないかと思います。

## 授業力向上

- 【これまでの成果】
- 「明小スタンダード」の取り組みにより、学習環境、授業の流れ、指導の重点等の基準からふれずに一貫して学習指導を行えた。(※明治小HP参照)
- 「自分で」「ペアで」「グループで」「全員で」という学習の流れを組むことで、多くの考えに触れさせながら広く深く考える場面を設定できた。
- この時間で分かったこと、身に付いたことを「めあて」に臨らし合わせながら「ふり返り」をさせたことで、学びに対する態度を育てることができた。
- GU、教育相談、学力テスト、とちぎっ子、全国学力学習状況調査等の結果を鑑み、T.T指導、少人数指導、個別指導によるきめ細かな指導をすることができた。



授業風景

## 授業の様子

ふり返りを行うことで、分かったことやできるようになったことに喜びを感じたり、逆に、難しかったことや忘れていたこと等を自覚したりして、今後の学習に生かそうとする態度が育ちます。今回は前回の授業から子供たちの「ふり返り」を紹介します。

長さやかさや小で表すことができるので、こんどはでも表したいと思いました。  
0.1cm=1mmや3=3.0などが分かりました。  
(3年生 算数)

「あたしのぼうしをかえしなさい。」のころを、おこっているようによむことがわかりました。  
(2年生 国語)

保育園の1才の子たちが、「これ読んで。」と絵本や人形を差し出されたときにいっしょに読んであげることができた。そうしたら「お姉ちゃん。」と言われた。次に遊ぶときには、1才の子にも分かるように説明したい。  
(4年生 マロニエ)

「ヒロ子」は、戦争は過去の過ちだから、それにくもではなく、その過ちを未来に生かしてほしいと願う強い心の持ち主になってほしいのが分かりました。「ヒロ子」は(中略)未来や平和のことを思えてとてもすごい人だなと思いました。(中略)僕もそんな人になりたいです。  
(5年生 国語)

資料を調べるために、これから算う度数分布表や対数グラフを使っていくので、まずはそれぞれの表やグラフについて知りたかったです。また、多くの人数など資料となる数が多いときは、書き忘れが出ないように気をつけたいです。  
(5年生 算数)

# 学力向上 通信④

## 家庭学習の習慣

本校では、学びを充実させるため、隔月で第3日曜日を初日とする週を家庭学習強化週間としました。

これをきっかけに、一層やる気を高め、家庭学習の習慣が身に付いてきたのならうれしい限りです。とは言っても、簡単に習慣が回れるものではありません。

まず、子どもが集中できる時間は短いものです。さらに、「やりなさい」と言えば言うほどやる気を損ねてしまいます。そこで、タイマーを使って時間制限したり、できたことや良くなったことをおたてたりしてみたいかがでしょうか。どれだけ勉強したかよりもむしろ学習を習慣付けることを優先に考え、1日5分でも集中して机に向かわせることが大切です。

春休みにも、是非、習慣づくりをお願いします。

卒業を前にした6年生は、中学校に向けて家庭学習の習慣は身に付いていなくてはなりません。



## What do you want to be?

平成30年度全国学力・学習状況調査結果によると、「将来の夢や目標がある」と回答した全国の6年生児童は88.2%、「自分にはよいところがある」は41.3%でした(本校の児童も概ね同じ傾向です)。学力との相関をみると、肯定的な回答をしている児童の教科の平均正答率が高いという傾向が見られました。

特に、学力との相関が最も高い「人の役に立つ人間になりたい」(74.2%)は、「いいえ」と回答した児童との教科平均正答率の差が10ポイント以上もありました。

これらは自己有用感による学習意欲や自信の表れであると考えられます。学校での所属感が高い。先生がほめてくれる。家庭での居がい感がある。周りの規範意識が高く安心できる等の生活環境が自己有用感を高めることにつながっています。





## 5 研修の実際

### (1) 本校の研究課題

自分の考えをもち、互いに学び合う児童の育成  
～児童がいきいきと自分の考えを伝え合う授業を目指して～



#### 目指す児童像

- 自分の考えをいきいきと表現し、よく聴き、友達の考えから学ぶことができる子
- 相手を意識して話合い、聴き合い、お互いに学び合う学級

### (2) 授業研究部

上下学年ブロックに分け、下学年ブロックを国語科主任、上学年ブロックを国語科副主任をチームリーダーとして、指導案検討、教材・資料準備、研究授業を行った。

指導案作成では、明小スタンダードに記されている「学びの環境」、「キーワード」や「学習形態」等をどのように生かしながら展開するか等、授業づくりの観点が明確になっており、その上で教師の工夫を生かした指導案を検討することができた。

#### 国語科学習指導案

第6学年○組 指導者 ○○ ○○

#### 1 単元名 ヒロシマのうた

#### 2 単元について

##### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領国語第5学年及び第6学年の目標「C 読むこと」をねらいとし、以下の内容に基づくものである。

##### 「C 読むこと」

- イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
- エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

##### 「言語活動例」

- イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

##### (2) 児童の実態（男子○名 女子○名 計○名）

学習に対して真面目で、授業中も真剣な態度で取り組んでいる。国語の学習では、読解力を高めるため、速読を推奨しており、読みの速度が少しずつ上がってきている。

アンケートの結果では、～(中略)～ことが課題である。

これらの結果を踏まえ、今回の学習では、登場人物の心情や作者のメッセージ



などを叙述をもとに読み取れるようにし、児童が自分の意見に自信をもって主体的に取り組めるようにしていきたい。

### (3) 指導観

本単元「ヒロシマのうた」は、原爆が投下されたヒロシマを舞台にした物語である。多くの困難にも負けず力強く生きるヒロ子の姿を見守る「わたし」の思いを、根拠となる言葉や文をもとに話し合いながら読み取らせる。また、戦争という恐怖や悲しみが大きい絶望的な状況下でも、人間らしく生きること、「平和」の大切さなど、作者がこの作品に込めたメッセージも考えさせたい。そのために、以下の手立てを講じて学習を進めていく。

1つ目は、戦争に関する物語であるため、社会の歴史学習（太平洋戦争等）との関連を図る。

2つ目は、学級文庫に戦争と平和に関する本を用意するなど、環境面を整え、物語の背景の読み取りを深めさせるようにする。

3つ目は、主題に迫る深まりのある読み取りをさせる。そのために、文章の構成や登場人物の相互関係を把握させたり、**キーワードとなる大切な文や言葉などをチェック**し、それを根拠に登場人物の心情を読み取らせたりする。また、**ペアや小グループなど学習形態を工夫**することで、互いの意見を交流させ、各々の考えを深めさせる。そして、全体の共有の時間をしっかり確保し、練り合いながら読み取らせたい。

## 3 単元目標

- (1) 登場人物の相互関係や心情などについて描写に着目しながら進んで物語を読もうとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- (2) 登場人物の相互関係や心情を、叙述に即して読み取ることができる。また、物語の主題と自分の考えをまとめ、意見交流をし、自分の考えを広げることができる。（読むこと）
- (3) 文章における語句と語句との関係を理解することができる。（知識及び技能）

## 4 指導計画（総時数10時間 本時 7 / 10）

\* 省 略

## 5 研究主題及び学力向上改善プランとの関連

自分の考えをもち、互いに学び合う児童の育成 ～児童がいきいきと自分の考えを伝え合う授業を目指して～
--

### ① 学校課題計画に基づいて

- ・ **根拠となる文や言葉**から自分の考えをもつことができるように、速読の時間確保や**家庭でのワークシート学習**を取り入れ、内容をしっかり把握させる。

- ・ペアやグループ学習、一斉学習を効果的に取り入れ、自分や友達の考えや思いを伝え合うことにより、読みを深めさせる。

② 本校の学力向上改善プランとの関連

- ・文章の構造や登場人物の相互関係をおさえたり、**重要な文や言葉に着目**して考えさせたりすることで、主題に迫る読み取りができるようにする。

## 6 本時の指導

(1) 題 目 「ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思い」

(2) ねらい ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いを中心に読み取ることができる。(読むこと)

(3) 研究主題及び学力向上をふまえた授業の観点

- ・物語の叙述に即し、**根拠となる文や言葉に着目して考えさせる**ことは、ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いを読み取る上で有効であったか。
- ・ヒロ子がワイシャツのししゅうに込めた思いを**グループの友達と話し合ったり、全体で伝え合い共有したり**することは、ヒロ子の心情を考える上で有効であったか。

(4) 人権教育上の視点

ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いをグループや全体での話し合いを通して読み取っていく活動は、本校の人権教育で育てたい資質・能力の実践力「友達と協力し合っているいろいろな問題を解決することができる。」につながるものと考えられる。

(5) 展 開 ※研究主題及び学力向上との関連 ○人権教育上の配慮 ◇評価

具体目標	学 習 活 動	指導上の留意点
・前時を振り返ることができる。	1 前時の振り返りをする。	○前時までの学習の流れや「わたし」のヒロ子に対する思いを、児童のこれまでの振り返りや <b>掲示物等で確認</b> し、本時の学習への意欲を高めさせる。
・中心人物の心の変容した部分を見付け、本時のめあてがわかる。	2 最後の場面での中心人物の心の変容した部分を見付け、 <b>本時のめあて</b> を確かめる。  ワイシャツのししゅうに込められたヒロ子の思いを読み取ろう。	※ <b>中心人物の心が最も変容した文に線を引かせる</b> 。また、その文から <b>キーワードを探させる</b> 。 ・原子爆弾は多くの犠牲者を出したものであるにもかかわらず、なぜ小さなきのこのような原子雲のかさをししゅうしたのか、疑問を投げかけ、児童にゆさぶりをかける。

<p>・ワイシャツのししゅうからヒロ子の思いを中心に読み取ることができる。</p>	<p>3 ワイシャツのししゅうの意味を考え、ヒロ子の思いを中心に読み取る。</p> <p>①自分の意見をまとめる。</p> <p>②グループで話し合う。</p> <p>③全体で発表し、共有する。</p> <p>④ヒロ子の姿を見たわたしと母の思いを考える。</p>	<p>※ワイシャツのししゅう、特に原子雲のししゅうの意味を<b>グループで話し合う</b>ことで思考を深めさせる。その際に、<b>叙述をもとに考える</b>よう助言する。</p> <p>○これまでの15年間にヒロ子と関わった登場人物を想起させたり、寝ないでワイシャツを作るヒロ子の心情を考えさせたりするなど、助言をしながら個別指導する。</p> <p>※<b>全体で共有する時間を確保</b>することで、より深く読み取らせる。</p> <p>・児童の意見を生かしたり、意図的に発問したりすることで、戦争という悲惨な状況の中で、強く生きる人間の成長を捉えさせる。また、その姿を見たわたしと母の思いも考えさせる。</p>
<p>・本時の学習を振り返ることができる。</p>	<p>◇評価規準</p> <p>ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いを中心に読み取ることができる。(読むこと)【観察・ノート】</p> <p>A ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いや、その姿を見たわたしとヒロ子の母の思いを読み取ることができる。</p> <p>B ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いを読み取ることができる。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <p>・個別に助言したり、友達の意見を参考にさせたりしながら、ワイシャツのししゅうに込めたヒロ子の思いを読み取らせる。</p>	
	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・本時の<b>学びを振り返り、自分の学びを確認</b>させる。</p>

### (3) 研究授業・授業研究会

#### ① 研究授業

教室には、「話し方・聞き方」を常時掲示してある。

研究授業に限らず、授業のめあてを話し合ったり、本時で必要なキーワードを探させたりしている。

個人の読み取りから、グループでの話合いとホワイトボードの活用、そして、全体での深め合いを行った。



#### ② 授業研究会

ア) 授業研究会を効率的で深まりのあるものにするために、「時系列シート」を活用して話合いを行った。

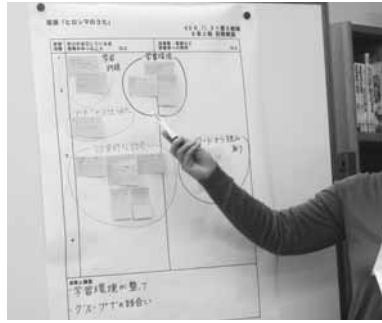
学習過程	学びが成立している点 効果があったことなど	改善点・提案 授業者への質問など
1	付箋 付箋	
2	付箋	付箋 付箋
3	付箋 付箋	付箋
4	付箋	付箋 付箋
成果と課題		

時系列シート「参照：校内研修ガイドブック（栃木県総合教育センターH29年3月）」

イ) ブロックに分かれ、「時系列シート」の意見等を項立ててまとめ、論点を明確にした。



ウ) ブロック毎の協議を経て、全体での共有を図った。



エ) 授業研究会のまとめ〈抜粋〉

「ヒロシマのうた」 6年 授業者 ○○○○教諭

○ 協議

- ・児童の考えの根拠をさらに明確にして、話し合いを深めさせたいが本時では有効だったか。
- ・グループワークでは「深い気付き」の見落としがないように努める方法はないか。
- ・振り返りの観点を明確にしたい。何が分かったか、学び方は有効だったか等。

○ 指導講評

- ・児童の読み取りの広がり感動した。中学生レベルの読みもあった。
- ・学びの基盤としての環境作りが素晴らしかった。
- ・根拠から意見を言えるようにさせたい。その視点からするとノートに自分の意見を書かせてから話し合わせたことはよかった。

オ) 授業研究会のまとめを受けて、研究推進委員会では、「明小スタンダード」の改善点について提案し、今後の方向性を確認した。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- ・「合い言葉」や「スタンダード」を掲げ、目的をもった「チーム」になり、全職員が一体となって教育活動に取り組む体制が整った。
- ・研究推進ばかりでなく、配慮が必要な児童へも全職員が一丸となって対応できる組織力が強まった。

### (2) 課題

- ・PDCAサイクルに囚われ、よりよい指導法の実践を見送ることがないよう、短期の評価・改善を図りたい。一人1授業の公開から工夫点を共有したり、日々の授業実践からうまくいったこと等を取り上げたりするなど、指導力の向上を図るため、OODAループをうまく組み込みたい。

OODAループ：Observe（観察）、Orient（状況判断、方向づけ）、Decide（意思決定）、Act（行動）の頭文字。

- ・校内研修が業務改善の一助となり、専門的知識の幅を広げ、授業力の向上につながるようさらに研鑽していきたい。